『徹底究明！現場職員の想い』

初公開！職員アンケート！

新年号の特集も3回目を迎え、毎年、若い職員達による討論会を踏まえ、全職員にアンケートをお願いして『介護施設で働く者の環境』を課題として追いかけてまいりました。今回は、前回までの『環境』の課題から『介護社会で働くために必要なこと』と題してもう一歩、深く取り組んでみました。

○自身で測る満足度

―前年度との比較で満足度75％以上としていた人数が減っている代わりに50％～75％、25％～50％の層が共に増えていることから『もうこんなもんでいいんじゃない』という考え方から『まずまず出来てるけどまだできるんじゃない？』『もっとこうしたい！』と現状に満足していない様子がうかがえます―

○満足・不満足要素の順位変化

―介護施設で働く若者の定着率が低い中、当施設では離職率が低い傾向にあります。その理由として考えられることは、給料その他の収入の不満がないとはいえないなかで、介護に対する意欲や生きがいを見つけ、勤務仲間とのコミュニケーションを図ることで継続していける自信に繋がっているのでは？と考えられます。また逆に仕事の量であったり時間の超過などが不満に思えるように、根本的な人員の充足には至っていないと考えられます―

○年代別不満課題

―今度は視点を変えて見ましょう。収入への不満は若い世代や経験年数の少ない職員にみられ、また経験年数が5年を過ぎたころに仕事量の増加に対して収入の増加に繋がらない不満が現れています。仕事に慣れたころには、不満課題は勤務体制や施設内環境への不満が多く出ていることから技術の向上や知識量の増加によって介護の質に対しての不満へと観点が変化していると考えられます。―

○自分が年をいたとき、どのような介護をしてほしい？

―圧倒的多数の回答者が答えたのが『想いを聞いて欲しい』そして**○仕事をするときにまず、何を全面に思いていますか？**との問いにはそれに対応するかのように『笑顔でコミュニケーションを』との答えが多く挙がりました。職員は自分のして欲しいと思う介護を目標に日々業務に向かっているようです―

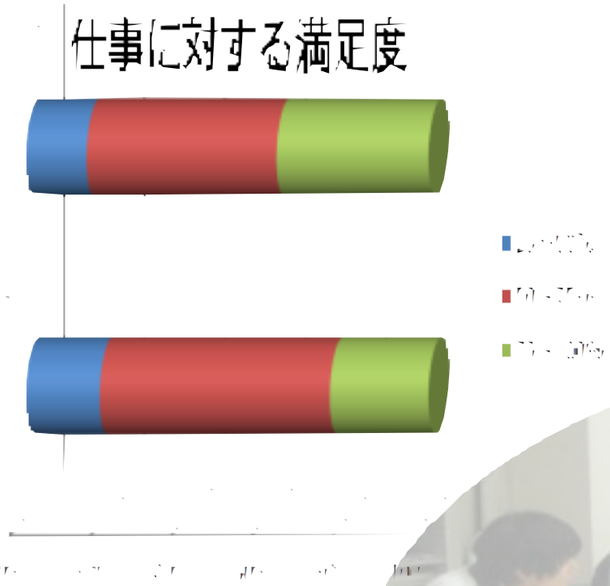
○今の仕事を漢字一文字で表記してください

―今年の漢字は『金』となりましたが、施設内での多くを占めた漢字は『忍』『忙』。理由は「こうしてあげたい」という理想はあるが目の前にある『その時間にしなければならない雑多なこと』という現実とのギャップ。そしてそんな中でも『笑』『心』というものを忘れずにこの仕事に関わりたいという想いが見えてきます。―

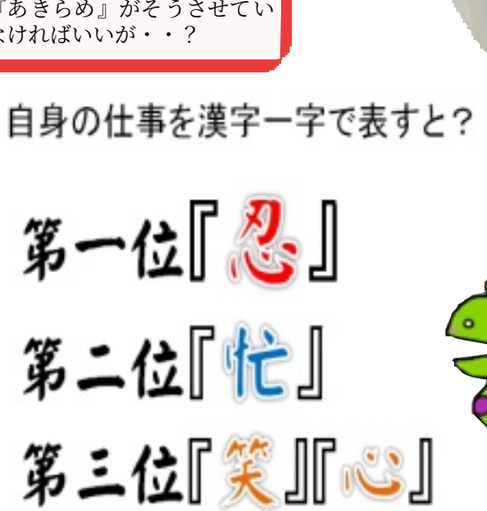
○笑える笑顔

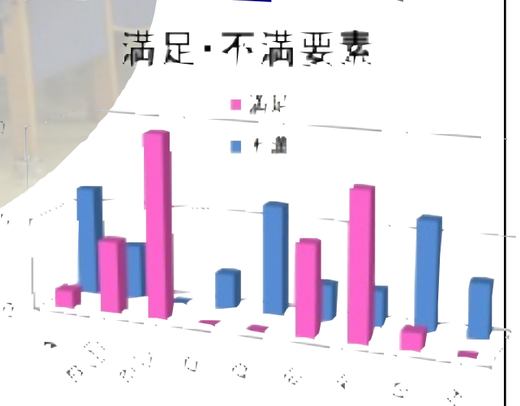
―失敗は多くて笑えないという多数の意見の中『寝ている利用者の方を気遣って車いすを静かに移動させていたらつまずいてしまい結局利用者を起こしてしまった。』というエピソードにクスリとさせられました。―

職員の方々、本当にみなさんたくさんの意見を書いていただきました。今回紙面へ載せきれなかった意見もたくさんたくさんありますが、みなさんの想いが少しでも読者の方々に伝われば、と思います。本当にご協力ありがとうございました。



完全に満足はしていないが、それなりに満足しているといった意見が大多数のようです。大満足からやや満足へ『慣れ』『あきらめ』がそうさせていなければいいが・・？





A　収入面
B①職場部署外の人間関係
B②職場部署内の人間関係
C　身体的な負担
D　勤務時間や仕事量
E　利用者、家族に対するコミュニケーション
F　仕事に対する意欲・生きがい
G　施設内環境
H　その他

満足のTOP3は『職場部署内の人間関係』『意欲・生きがい』『コミュニケーション』
人間関係が良好で意欲が持て、コミュニケーションが取れると感じているようです。
一方、不満のTOP3は『施設内環境』『仕事量』『収入』
仕事量の割には収入が少ない。施設内環境が整っていないと感じているようです。

アンケートを通して

新年特集号も四回目、。毎年、課題を決め若手世代の討論会や全職員のアンケートで現場での生の声を少しでもお届したいと、企画しています。継続するにつけ、取り上げる課題の変化があります。今までは介護という世界を漠然と取り上げてきましたが、今回は介護技術や援助方法など、踏み込んだ意見が多く出ました。特に、現在の私達施設でのやり方が決してベストではないこと、他の施設での見学や研修。意見の交換などをして幅広くスキルアップをしたいという前向きな意見がでている、とが前年度とは違った風景でした。介護の仕事を『するか、しないか』ではなく、『どういう風にしたいか』といいう変化に頼もしく感じました。そうはいっても、介護保険の改正以降介護職員の環境はまだまだ厳しいままです。介護の仕事は、重労働であることに変わりありません。そのなかで、介護することに生きがいを持ち、誇りに思える職業とするために、私達は模索しながら、職場全体で考え、仲間とともに取り組んでいく努力をしたいと考えてます。どこの施設でも一緒・ではなく、あじさいでよかったと言っていただけるよう、また、あじさいで働けてよかったと思えるように。今年も仲間とともに。編集長

『イタリアのお正月』

みなさん、新年明けましておめでとうございます。皆さんにとって2012年は、どんな年でしたか？2013年が実りある年になるよう祈りつつ、今回はイタリアのお正月事情について、お話したいと思います。以前にもお話しましたが、カトリック教徒が人口の大半を占める西欧では、1年で最も大切な日はクリスマスであり、前後の数日間は、お休みで、それぞれ家族と一緒に、静かに過ごします。反対にお正月は友達や恋人と一緒に、パーティーなどに繰り出し、にぎやかに過ごすのが一般的です。1月1日は、日本と同じく祝日となりますが、2日からは大半の会社は仕事始めとなり、社会も動き出します。そして毎年大みそかからのカウントダウンでは、1月1日を迎えると、いっせいに各家の窓やベランダから、爆竹やロケット花火やらが飛び出し、同時に歓声が上がったりします。どうやらラテンの国の人たちは、後先考えないひとが多いらしく、毎年この花火でヤケド などのケガ人が続出し、病院が忙しくなる時期でもあります。さらに、花火と同時に街行く車からは、一斉にクラクションが鳴り響きます。それも、一瞬ではなく、10秒、いや10秒以上もクラクションを押し続けるもんだから、やかましいったらありゃしません。この車のクラクションはイタリア人はとても好きで、何かのたびにすぐクラクションで喜びを表現します。とくにサッカーなどで地元のチームが優勝したりすると、数時間、街はクラクションの音であふれかえります。数年前のワールドカップ・ドイツ大会のとき、イタリアが世界一になったときは、そりゃもうたいへんでした。あ、お正月に話を戻すと、街角ではあちこちで男女が人目も気にせず、抱擁したり接吻したり踊ったりしてます。このようにして毎年、お正月を迎えるのでした。

3階介護士　神尾